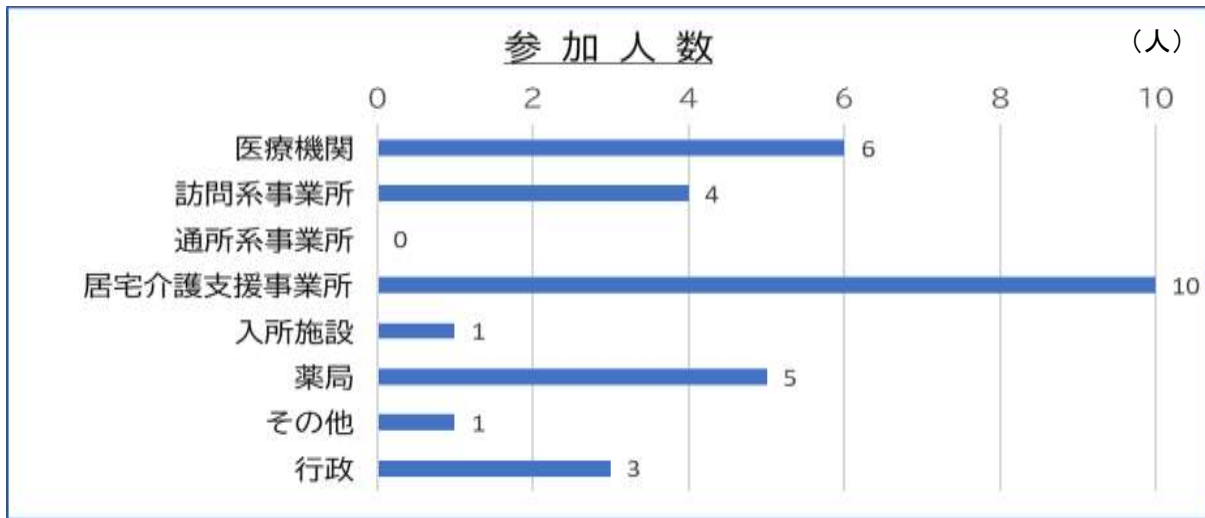


令和6年度 医療と介護の連携検討会「高齢者の予期せぬ入院」 坂ノ市会場 報告書

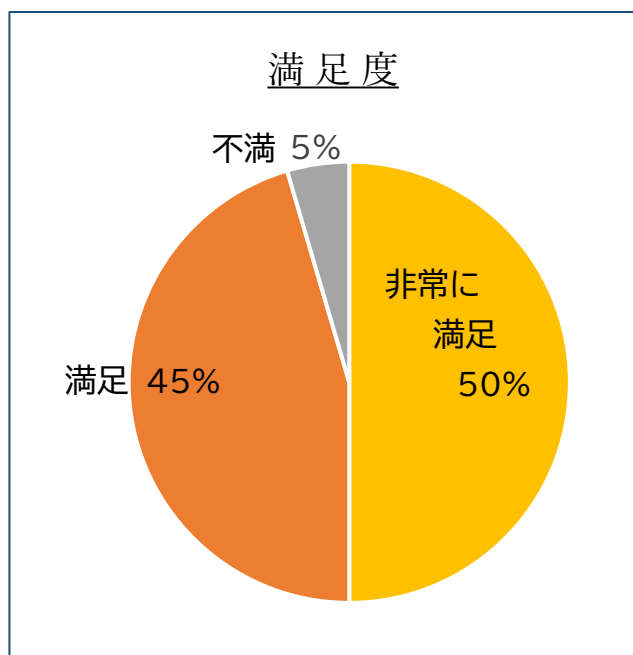
- 1 日 時： 令和6年7月31日（水）19:00～20:30
- 2 会 場： 坂ノ市公民館 集会室
- 3 共 催： 大在地域包括支援センター、坂ノ市地域包括支援センター
- 4 参加者数： 計46名
事業所別参加人数（30名 / スタッフ16名を除く）



5 アンケート集計結果（有効回答数：22）

問1. 満足度

	(人)
非常に満足	11
満足	10
不満	1



問2. 問1の回答理由

【不満の理由】

- ・グループワークの参加者に医師やMSWの方がいらっしやらなかったため、意見交換ができなかった。[ケアマネジャー]

【非常に満足・満足した理由】

- ・各々の専門職の意見が聞けて急な入院時の対応、情報提供者の内容の充実が必要だと感じた。ケアマネからの情報もあるが、現状や薬情・食事内容・サービス内容などももう少し細かく気にしていこうと思う。[訪問看護師]
- ・グループワークのテーマ2で情報共有が解決策の鍵であるとの方向に進んだが、各職種の情報共有で気を付けている点や必要とする情報が確認出来た事が学びとなった。[薬剤師]
- ・テーマが複数・複雑ではなく、わかりやすかった。[薬剤師]
- ・他業種と触れ合い、違った意見を聞き、勉強になった。[医師]
- ・医療系の参加が少なくて残念だったが、相談員やリハ職など多職種の意見を聞いた。また圏域をまたいで連携できたのは良かった。[ケアマネジャー]
- ・普段お話しする機会のない職種の方と情報共有できる機会を頂けて良かった。とても参考になった。[複数意見]
- ・日頃の業務とは違う話を聞いたこと。[薬剤師]
- ・他の職種の方の意見を聞くことができ、自分では気付いていない部分に気付くことができた。[ケアマネジャー]
- ・職種によって知りたい情報も違うなと感じた。もっとアセスメントをしなければならないと反省した。[ケアマネジャー]
- ・地域を超え職種を超えての医療・介護の連携ができ、より良い何か方法がないかを話せたと思う。[ケアマネジャー]
- ・職種の方それぞれの課題や悩みなどが有る事を知識として得られた。[薬剤師]
- ・今まで知らなかったケアマネジャーの動きが知ることができた。（「今年度の改定で、当日 or 3日以内に情報提供をする事で算定が変わってくる」など）[管理栄養士]
- ・様々な業種の方の色々な意見が聞いた。色々な悩みや考えがある事が知れたので良かった。[福祉用具専門相談員]
- ・他職種の方と意見交換ができ、実践内容を知れて良かった。[施設長]

問3. 今回の開催方法（4会場とZoom2回）について

- ・場所、参加方法と、選択肢が増えるので良い。[最多数意見]
- ・コロナが増えている中でフレキシブルに参加できる環境があり、参加し易かった。
- ・ハイブリッド形式を希望。[複数意見]
- ・エリア各地（大分市中心部、坂ノ市、明野、植田）で開催されて良かったと思う。
- ・自宅に近い会場を選べたので良かった。

問3. 今後開催する「医療と介護の連携検討会」に期待するテーマ

- ・退院時の連携
- ・名刺交換会
- ・障害者や、ヤングケアラー

6 グループワークで出た意見（テーマにかかる発言を抜粋）

① 高齢者が急な入院をした(してきた)場合に困ること（課題）

- ・医療同意の得られるキーパーソンと、経済的なことや、入退院時のことについて話ができるキーパーソンが違うことがある。医療機関はその辺りの情報を全く持っていないので、知っている専門職と連携できると助かる。
- ・キーパーソンが見つかって、遠方だったり疎遠だったり、入退院について話をするのが困難。
- ・家族が本人の情報を持っていない、実はよく知らない・分かっていないことがある。
- ・病院の担当者が分からない。／ 病院から「利用者が入院した」という連絡が来ない。
- ・服薬やアレルギー、嚥下状態などの大切な情報が共有されていない。
- ・伝達される情報が簡潔化され過ぎて、知りたい情報が出てこない。
- ・ケアマネジャーがついていても、本人家族と関わりが薄いこともある。
- ・情報共有の連携が途中で途切れてしまう（自分じゃなくても誰かがやっているだろう、という思い）。
- ・最新の情報が届かない。
- ・胃ろう造設や延命治療の際、本人の意思よりも、医療同意を行う家族の意思が優先されてしまう。

② ①の課題解決につながりそうなアイデア、工夫、留意点

- ・民生委員が配布している、「緊急医療情報キット」の活用
- ・健康保険証とケアマネの名刺を一緒に持ってもらう
- ・お薬手帳に、関わっている職種が名刺を貼っておく
- ・本人に、電話の前に、関わっている事業所の一覧を貼っておいてもらう。
- ・独居の方は、緊急連絡先や関わっているケアマネなどの情報も含め、「入院セット」を玄関先に準備しておく
- ・家族等キーパーソンへの連絡や説明は、「誰が」「誰かが」ではなく、医療機関も介護事業所もそれぞれが行う。
- ・電子タグの所持
- ・マイナンバーカードへの登録
- ・情報共有できる I C T システムの活用 + アナログ対応
- ・本人の元気なうちから、情報の提供・共有を図っておく

----- 以上 ご参加いただきました皆様、貴重なご意見をありがとうございました。-----